

3・茨城県における文化財レスキュー事業活動報告

吹野 富美夫 茨城県教育庁 文化課 文化財保護主事

0. はじめに

茨城県では、指定文化財の復旧工事が開始され、復興の鐘音が響いている。中でも、特別史跡及び国指定有形文化財の旧弘道館、国史跡の水戸徳川家墓所及び国指定有形文化財のシャトーカミヤ旧醸造場施設については、甚大な被害があったため、被害調査、解析及び設計に多くの時間と労力を費やし、ようやく復旧工事の着手に至ったものである。

一方、損壊建物の撤去等は現在でも各地で発生し、茨城文化財・歴史資料・救済保全ネットワーク（以下、「茨城史料ネット」）を中心とする未指定文化財の救援活動は継続中である。

本稿は、2年目となる茨城県における救援活動及びそれに付随する広報活動の概要を報告するものである。

1. 大洗文化センター収蔵庫の救援活動

大洗文化センター収蔵庫は、センターの一室を埋蔵文化財収蔵庫として利用していたものであるが、津波の被害を受けたにも関わらず、テンバコが転倒するなどの被害がなかったため、被害状況の把握が遅れたものである。対象はテンバコ127箱及び貝を収納した土嚢袋30袋で、救援活動は6月3日及び7月9日に実施した。

6月3日は、23名の参加者により収蔵資料を外に出し、特に津波被害を受けた資料の洗浄及び脱塩処理を実施した。脱塩処理の方法は資料を別のテンバコに移して真水に浸すものであり、留意事項は注記及びラベルの情報を失わない点である。海水に浸かり乾燥して塩が付着した考古資料や、塩の影響により錆びが進行した金属製品については、干し網に資料を並べて高圧洗浄機で洗浄した。考古資料の高圧洗浄には、資料の状態や注記に考慮し、水圧を調整して実施した。資料は、洗浄及び脱塩処理後、自然乾燥を行った。

7月9日は、17名の参加者により自然乾燥を行った資



現況コンテナ



洗浄



水漬

料の収納を実施した。

2. 広報活動

2-1. 真壁伝承館歴史資料館第2回企画展

桜川市教育委員会は、7月28日から10月31日にかけて、真壁伝承館を会場に「新治汲古館の継承～文化財レスキューの一事例～」を開催した。この企画展は、在野の考古学者である藤田清氏が設立した博物館である新治汲古館の救済資料が対象で、資料の一括寄託を受けた桜川市教育委員会が藤田氏の業績とともに、茨城史料ネットの活動を紹介した。

2-2. 茨城県文化財愛護推進セミナー

茨城県教育委員会は、平成25年1月24日に茨城県立歴史館を会場に茨城県文化財愛護推進セミナーを開催した。当セミナーでは、茨城史料ネットの代表である高橋修茨城大学人文学部教授により「東日本大震災 文化財・歴史資料のレスキュー活動」と題する講演会を実施し、約150名の参加を得た。

2-3. 筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター 公開シンポジウム

筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターは、平成25年3月2日に筑波大学を会場に「大災害における文化遺産の救出と記憶・記録の継承—地域コミュニティの再生のために—」と題するシンポジウムを開催した。

2-4. 鹿嶋市の特別展示

鹿嶋市は、平成25年3月16日から3月24日にかけて、鹿嶋市まちづくり市民センター・市民ギャラリーを会場に「東日本大震災 鹿嶋市の津波被害と救出された龍蔵院の文化財・歴史資料」と題する展示会を開催した。

2-5. 鹿嶋市の歴史文化フォーラム

鹿嶋市は、平成25年3月23日に鹿嶋市まちづくり市民センターを会場に「東日本大震災 被災した文化財・歴史資料を守る取り組み」と題するフォーラムを開催した。

3. おわりに

東北地方太平洋沖地震は、茨城領域全体にも甚大な被害

をもたらし、茨城史料ネットを中心とした献身的な救援活動にも関わらず、認識されることなく廃棄された文化財が存在することも考えられる。茨城県における巨大地震への対応のあり方については、文化財保護の観点からその強化が求められている。

宮城県では、宮城県被災文化財等保全連絡会議が発足し、独自の救援体制が構築され、多くの救援活動の成果を上げている。

今後は、宮城県のような体制の構築を目標とした上で、既存の組織や制度を活用しながら、段階的に体制の構築を目指していきたいと考えている。